

初めて不登校の子どもを担当する

# 先生のための支援ガイドブック



発行：大和郡山市教育委員会 学科指導教室「A S U」

## ◆目次

1 p	巻頭の言葉	11 p	Ⅲ 段階別支援 【不登校の段階チェック】
2 p	心のエネルギーの回復	12 p	【さなぎ前期】 25 さなぎ前期にあられる特徴 26 生活が乱れる理由 27 さなぎ前期の保護者の気持ち 28 毎朝起こすべきでしょうか？
3 p	対応フローシート 1 不登校の定義 2 小学校の不登校と中学校の不登校		
4 p	I シグナル 3 電話対応マニュアル（例） 4 欠席への初期対応（例）	13 p	29 家庭訪問のポイント①～⑤ 30 保護者のアンケートより 31 教材費・給食費 32 関係性を切らないということ
5 p	5 担任の先生がやること①～④ 6 カウンセリングマインドのない対応とある対応	14 p	【さなぎ後期】 33 さなぎ後期の子どもと接するときのポイント ①～③ 34 心のまど
6 p	7 子どもがつらい気持ちを話した場合 8 困難な事例への対応 9 専門機関につなぐとき 10 親にはこんな風に聞こえます 11 聞き上手になるために	15 p	35 登校刺激の与え方について 36 登校以外の目標の設定 37 他の子どもたちへの説明 38 テスト・評価について
7 p	12 原因ときっかけ 13 見立て（アセスメント）とは 14 感覚過敏	16 p	【始動期】 39 学校への誘い方の一例
8 p	II 初期対応 15 学校としてやること①～⑤ 16 この時期の典型的なパターン 17 保健室登校	17 p	40 再登校までの準備①～④ 41 スモールステップの設定 42 すべて実験です 43 先生のせいにしてもよい
9 p	18 子どもとのかかわり方（不安を和らげる） 19 保護者とのかかわり方（共感） 20 この時期の保護者の気持ち 21 ひどいお母さん？	18 p	44 行事登校の実際 45 子どもの不安を低くする方法 46 また休んだ子になんと声をかけますか
10 p	22 朝日新聞「悩みのるつぼ」より 23 担任のしんどさ 24 欠席連絡		

## はじめに

平成9年に開設された適応指導教室「あゆみの広場」が、構造改革特区の認定を受けて、大和郡山市学科指導教室「ASU」(Ayumi Square Universe)として新たなスタートを切ったのは、平成16年4月のことでした。以来、130名以上の子どもたちが「ASU」を巣立っていきました。本年度、開校15年目を迎えたことを機に、不登校の子どもたちの心の居場所として、実際に子どもや保護者と関わってきた実践や事例を踏まえながら、『初めて不登校の子どもを担当する 先生のための支援ガイドブック』を作成しました。

不登校への対応にマニュアルはありません。ですから、この冊子はマニュアルではありません。ただ、「不登校」という言葉でひとくりにされている子どもたち一人一人が、どんな不安や苦しみを抱えているのか、その子どもたちに対して教師は何ができるのか…そんなことを考えていただきたいと思います。そして作成したものです。

タイトルに「初めて不登校の子どもを担当する」とありますが、子どもたちに寄り添い、支え、いずれは自分の足で歩いて行けるように手助けをするという教師の役割は、すべての子どもたちに必要なものです。ですから、この冊子は、すべての先生方に一度通して読んでいただきたいと思います。そして、実際に不登校のシグナルを感じる子どもがいたら、もう一度、この冊子をじっくりと読んでみてください。参考になることが、必ずあるはずです。そうした意味で、この冊子は「先生のための支援ガイドブック」なのです。子どもたちを支援するためにも、まず先生方を支援したいと考えています。

もちろん、不登校傾向にある子どもへの対応は、一人の先生でできることではありません。校内体制を整備し、学校全体で取り組むことが大切です。この冊子を学校での実践や研修等に幅広くご活用いただき、子どもたちに寄り添う学校づくりをさらに進めていただくことを願っています。

大和郡山市教育委員会教育長 谷 垣 康

不登校は相変わらず減らず、学校現場の喫緊の課題になっています。不登校状態は母子分離不安や発達障害とからんで小学校低学年でも生じますが、その多くは小学校3年生以降に課題になってくる新たな自分の形成、すなわち思春期的な課題と絡んでいます。この時期に適切に支援することができると、子どもたちは見事に成長していきます。

その支援のポイントは、彼らを甘えていると批判的に見るのではなく、心に深い不安を抱えた一人の人としてそっくりそのまま受け入れることです。目標は「学校に来させること」ではなく「子どもが元気になること」。元気になるればおのずと登校は再開されます。子どもが元気になる過程は、「あなたはそのなかでどう生きるのか」を、一緒に考える過程でもあります。その際こちらの生き方が問われることは言うまでもありません。

もう一つのポイントは、学校を安全にすること、また保護者との連携および保護者への支援です。子どもの著しい不安状態は保護者や教師、学校との関係で生じていることが少なくありません。したがってケースごとにしっかりとアセスメントし、SCを含めてどうチーム学校として対応するのかなど、初期方針決定が大きな役割を果たします。特にいじめによる不登校は重大事態と認定されますので、初期対応は重要です。

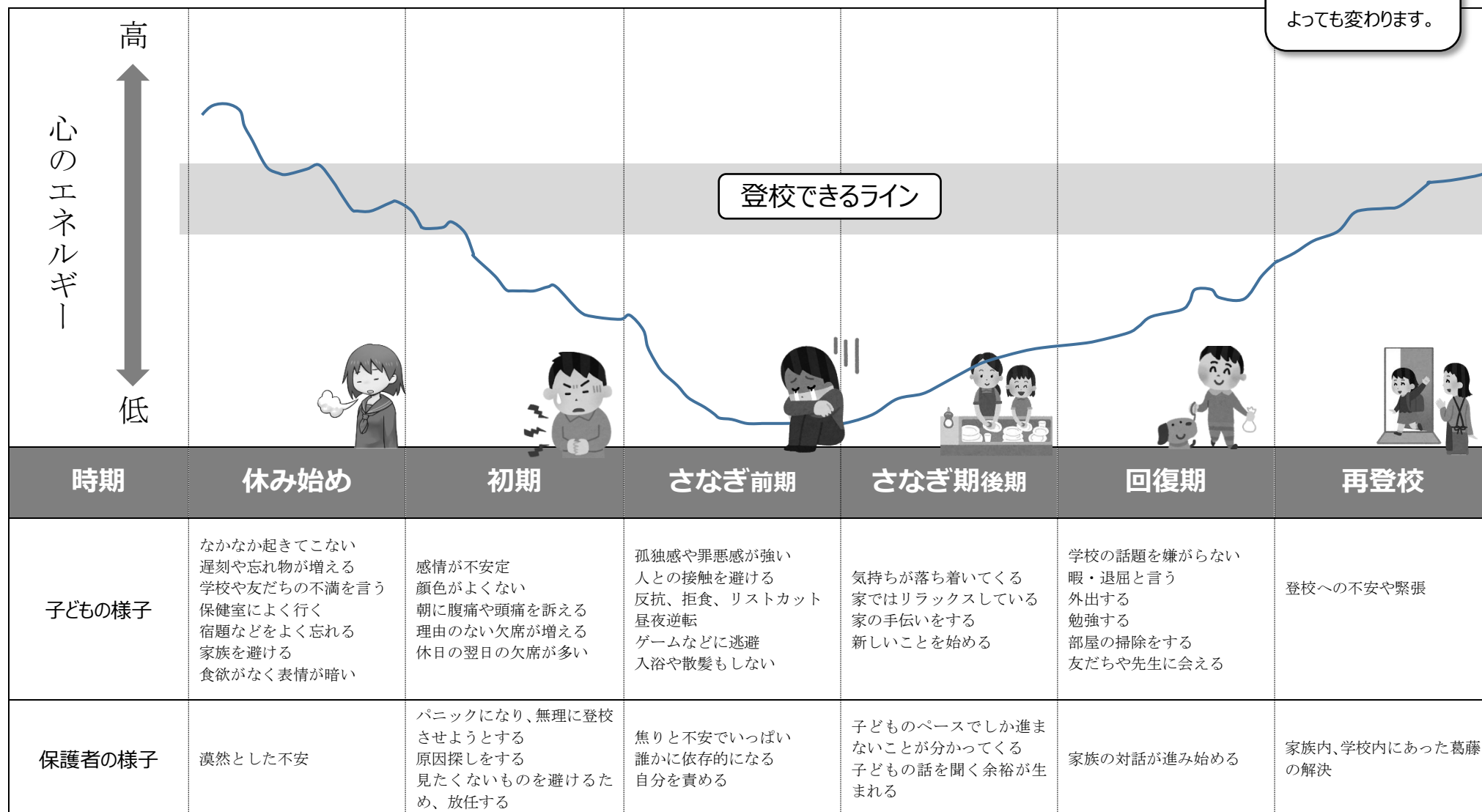
このガイドブックは「ASU」での実践や多くの先生方の実践の上に作成されたものです。さらにご意見を頂き、大和郡山市版不登校ガイドブックがよりよいものになることを願ってやみません。

天理大学大学院臨床人間学研究科  
学科指導教室「ASU」主任カウンセラー・スーパーヴァイザー  
千 原 雅 代 (監修)

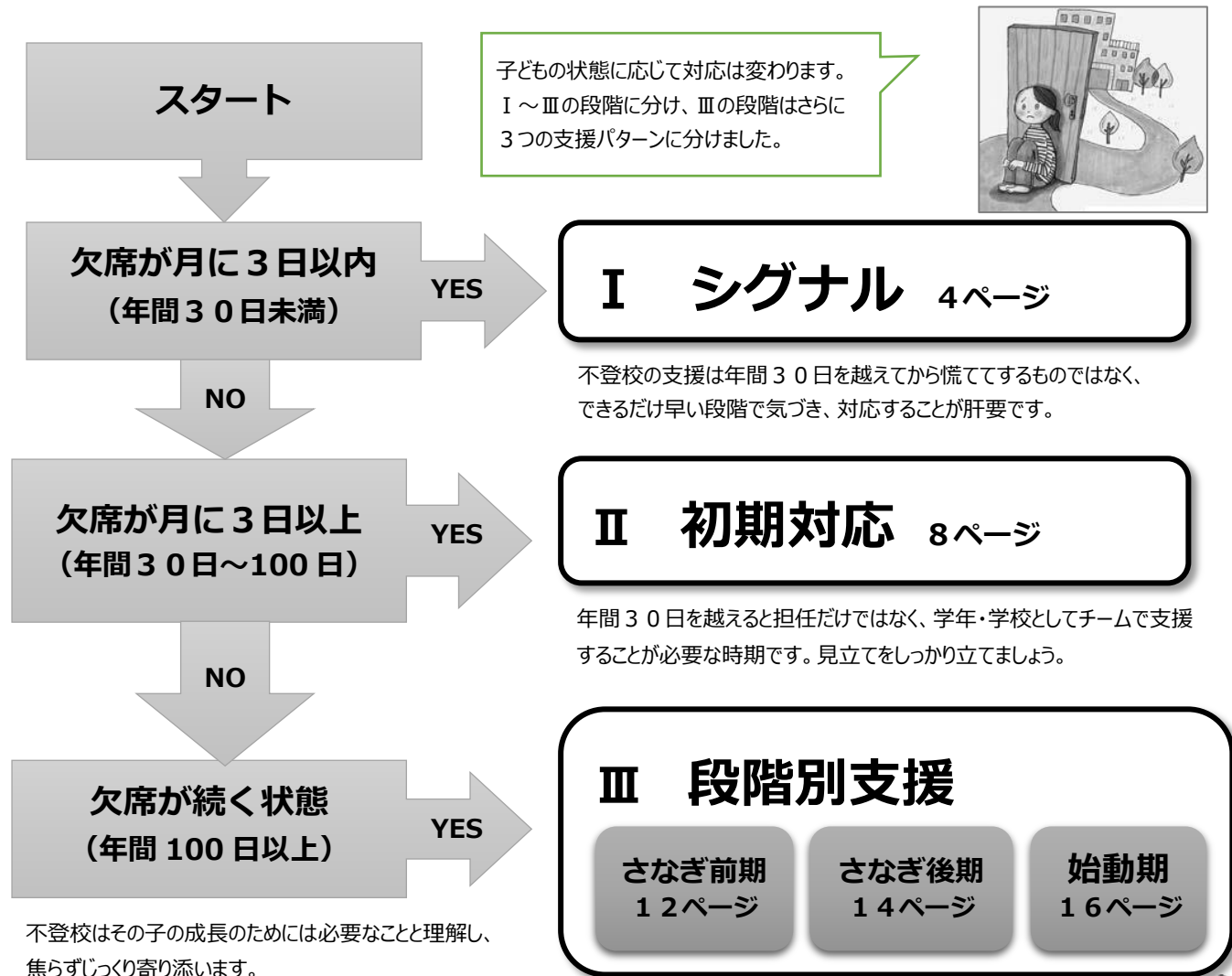
## 【心のエネルギーの回復】

不登校の回復の段階はかなり共通しています。現象だけに目を向けず、どこまでエネルギーが回復しているか、という「見通し」をもって見守ることが大切です。

深さや長さは子どもにより、また対応によっても変わります。



# 対応フローシート



Column

1

## 不登校の定義

「不登校児童生徒とは何らかの心理  
的、情緒的、身体的あるいは社会的要  
因・背景により、登校しない、あるい  
はしたくともできない状況にあるため  
に、年間30日以上欠席した者のうち、  
病気や経済的な理由による者を除いた  
もの」(文部科学省)

2

## 小学校の不登校と中学校の不登校

国立教育施策政策研究所の調査(2003)によると、中1  
の不登校生の68%が、小4以降に行き渋りなど何らかの兆  
候を示しています。小学校で不登校経験がある子どもは中  
学入学した4月当初から欠席が目立ち、経験がない子ども  
は夏休み明けから欠席が目立ち始めるケースが多くなって  
います。中1の夏休み明けまでは、きめ細かく見ていくこ  
とが大切だと言えます。

# I シグナル

月に**3日以内の欠席**（年間30日未満）が目安。

「子どもが1月（ひとつき）に3日休むことはめったにない」との意識で、  
子どものシグナルに気づくアンテナの感度を上げ、迅速かつ温かい対応を。



## 3 電話対応マニュアル（例）



「今日は欠席します」



「どうされましたか」

### ❖風邪など症状がはっきりしている場合

「受診されたら結果を教えてください。  
また明日の連絡を電話します。  
お大事になさってください。」

### ❖「ぐずぐずしている」など理由が曖昧な場合

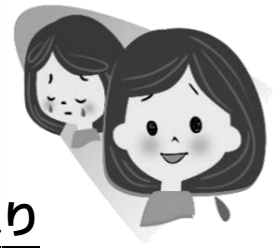
（毎朝登校を渋っていることが予想されるので）  
「しばらく様子を見てもらって元気になったら午後からでも登校してください。待っています。」

- ❖担任が電話に出られない場合も欠席理由は曖昧にせず必ず確認します。
- ❖受けた連絡は職員室の欠席黒板に記入し、全職員が把握できるようにします。
- ❖友だちの「今日休むって」などの口頭での連絡ではなく、保護者と直接話す機会を大切にしたいものです。

## 4 欠席への初期対応（例）



欠席 <b>1</b> 日目	<u>○連絡あり</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席の理由など子どもの状態を把握。</li> <li>・翌日安心して登校できるように、電話等で時間割や持ち物の連絡を。</li> </ul> <u>○連絡なし</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の教員と連携し、午前中なるべく早く確認。</li> </ul>
欠席 <b>2</b> 日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調以外の原因があることも考えて、保護者から様子を聞きます。</li> <li>・あいまいな理由や原因が変化している場合は、家庭訪問を。</li> </ul>
欠席 <b>3</b> 日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お見舞いという形で家庭訪問をし、「心配しているよ」「待っているよ」という気持ちを伝えます。</li> <li>・登校した時の心配事（提出物やテストなど）への配慮を伝えます。</li> </ul>



### ①サインが出ていないか振り返る

- ☐ 保健室や職員室に来ることが増えていないか  
(休み時間の過ごし方)
- ☐ 授業中の態度(集中力)や忘れ物はどうか
- ☐ 給食はいつものように食べているか
- ☐ 作文や日記に気になる表現はなかったか
- ☐ 成績が急に下がっていないか
- ☐ おどおどしたり緊張したり気になる様子や表情はないか
- ☐ 部活動を休んでいないか
- ☐ 体調不良をよく訴えていないか
- ☐ 休日の翌日や決まった曜日・教科の日に休んでいないか
- ☐ いじめを含む対人トラブルがないかどうか・・・など

※ 3つ以上チェックが入れば赤信号です。

担任一人ではなく、養護教諭や教科担任、部活顧問などからの情報も収集します。



### ②子どもからの聞き取り

「最近どうしたの?」「ちょっと心配しているんだけど」と声をかけます。他の子がいる場所では話しにくいこともあるので、タイミングと場所を配慮します。悩みがあっても親や教師に話さない子どもは少なくありません。子どもの言葉だけではなく、その裏の気持ちを想像して聞きます。原因を問い詰めたり、休み癖がつくよ、勉強が遅れるよ、など説教や正論は控えます。

### ③保護者からの聞き取り

子どもの様子が心配であることを伝え、家庭での様子を聞き取ります。電話での保護者の様子が気になったときは、「今からおうちに行きましょうか?お子さんがいない方が話しやすければ学校に来られませんか?」と聞いてみてください。この時期の保護者は不安が高まっていますのでしっかりと話を受け止め、信頼関係を作ることを目標にします。

### ④管理職に報告

欠席理由、対応状況等を報告します。子どもや保護者から聞き取った内容が、自分だけでは判断や対応が難しいと感じた時は、ケース会議を開くなど、学校としての方針(見立て)を立てて対応します。

Column

## 6 カウンセリングマインドのない対応とある対応

先生 「最近忘れ物も増えているし、  
元気がないように思うのだけれど」  
子ども 「いや別に・・・」  
先生 「じゃあ忘れ物しないように  
気を付けろよ」  
子ども 「はい」  
先生 「よし、行っていいぞ」

先生 「最近忘れ物も増えているし、  
元気がないように思うのだけれど」  
子ども 「いや別に・・・」  
先生 「そうか?(少し待つ)  
言いたくないこともあるだろうけれど、  
何かあれば言ってほしいな。  
力になりたいと思っているから」  
子ども 「はい、ありがとうございます」



※次につながるかどうかのポイントです。  
子どもは「この人に言って大丈夫かな」と考えます。

## 7 子どもが辛い気持ちを話した場合

「よく言えたね」「ずっと一人で辛い思いをしてきたんだね」「気がつかなくてごめんね」といわれます。  
「先生に何かできることがあるかな？」と聞いても、何も言えない子どもの方が多いので、具体的に提供できることを提案します。「どうかな？」と子どもと相談しながら、可能な限り早く動きます。  
大切なのは、子どもの表情や言葉の裏の意味を感じ取りながら丁寧に気持ちを確かめることです。



### ◆本人が登校しやすい状況を考えてみる

- ☐ 保健室や別室での対応
- ☐ 時間的な融通（遅刻、早退を認める）
- ☐ 特定の教科だけの参加・不参加
- ☐ 教室での席の配慮（出入りしやすい後ろの廊下側）
- ☐ 保護者による送迎や保護者同伴での登校や教室での待機など

## 8 困難な事例への対応

### ①いじめが原因であると思われるなら

いじめを受けている子どもの気持ちを大切にしながら迅速に組織的な対応をします。

### ②情緒的な課題

リストカットや摂食障害、不眠、抑うつ症状などが強い場合は専門機関につながります。

### ③虐待が疑われるとき

子どもの安全を最優先し、子ども福祉課から子ども家庭相談センターへの通告も検討します。

### ④発達障害が考えられる場合

特別支援コーディネーターの先生と相談し、専門機関とも連携し、その子の特性に応じた対応を考える必要があります。



### 9 専門機関につなぐとき

安易に精神的な病気や障害の話をする、トラブルの原因になることがあります。腹痛や吐き気といった身体症状の改善を理由にすると受診をすすめやすくなります。病院をすすめるに場合は、研究所などの相談機関を先に紹介します。「学校に見放された」と誤解されないために、専門機関との連絡は教師がとる、初めて行くときは学校からも誰かが一緒について行く、などの配慮もいるかもしれません。

例) 学校としても今後どのような支援が必要なのかを専門家からアドバイスをもらえたらと思います。〇〇というところがあるので、行ってみたいと思うのですが、一緒に行ってみませんか？

*Column*

### 10

#### 親にはこんな風に聞こえます

（不登校等親の会「マザーリーフ」より）



#### ①「学校では元気ですよ」

⇒子どものしんどさはよほど丁寧に見ないとわからないもの。簡単に元気だと言い切ってしまうと、「私には見えていません」と言っていることになる場合も。

#### ②「学校へ引っ張ってきてください」

⇒それができなくて困っているのに、「起こして家を出るのが親の仕事だろう」と責められているように感じられます。

### 11

#### 聞き上手になるために

聞き上手になるコツは、「自分がしゃべらない」ことです。カウンセラーは「なるほど」「なるほどなるほど」「なるほどねえ」「そうだね」「そうなんやあ」「そうかあ」とあいづちを多用します。逆にあまり使わないのは、「わかる」です。「そんな簡単にわかれてたまるものか」という反発が起こる場合もありますし、プロは「人の心はわからない」ということを知っているので、一生懸命黙って聞きます。教師は、何か気の利いたアドバイスをしなければ頼りない先生だと思われまいかと、ついしゃべりがちです。しっかりとした見立てを持ちつつ「難しいね」「どうなんだろうね」と、一緒に悩む姿勢が大切なのでしょう。



## 12 原因ときっかけ

「どうして学校に行けないの？」と聞かれた子どもはいろいろ理由をあげます。それさえ取り除けば行けるかという、それほど単純なものではありません。

イヤだな、つらいなと思うことがあって、でもそれでも毎日行く。テストや競争は苦しいこともあるし、ストレスもかかる。でもワイワイ話をする友達がいるから、出かけていく。そんなバランスの中にいます。そのうち、つらい苦しいイヤだなと思うことがどんどん大きくなる。耐えきれなくなったときは、もう気持ちは目いっぱい。風船が膨らむだけ膨らんで破裂寸前です。そこに、ちょっとした刺激でも加わろうものならパーンと破裂してしまいます。このときに「学校に行かない」が始まります。

小林高子「不登校になったら最初に読む本」より

針＝きっかけ  
最後に受けた刺激

原因

実は様々なストレスが心の中にたまっていた

子どもの言う理由は二転三転することがよくあります。嘘を言っているのではなく、年齢が幼いほど自分でもどうしてなのかわからないし、ましてや言語化できる子どもはほとんどいません。親は「学校に行けないのは学校に原因があるに違いない」と思い、教師は「他の子どもは登校しているのにそれができないのは、本人の弱さや家庭の教育力に問題があるに違いない」と思い、親と教師はお互いに原因を押し付け合うことにもなりかねません。

### ◆発想の転換を

どうして学校に行けないのだろう、いじめられていたのだろうか、先生との相性が悪いのだろうか、育て方が悪かったのだろうか・・

このように考えるのが「原因論」です。それに対し、この子が不登校になったのには何か目的があるはずだ、休むことで私たち大人に何を訴えたいのだろうか？このように考えるのが「目的論」です。不登校支援は、学校復帰させることだけでなく、これをきっかけに子どもの成長・発達を図り、生きる力をつけていくことだという発想の転換が、親にも教師にも必要なのではないのでしょうか。

## 13 見立て（アセスメント）とは

「見立て」とは、子どもの家庭環境や生い立ち、今の状態などから総合的に判断し、これからどのようにその子や保護者を支援していくか、を決定する「支援方針」のようなものです。でも、不登校支援はそんなに簡単に対応策が見つかるわけではなく、中学校の先生の5割、小学校の先生の7割が「見立てに自信がない」と答えています。

### ◆教師が陥りがちな見立て

子どもを見ていると、「甘えている」「わがままで」「精神的に弱い」と感じる場合があります。また、保護者に対しても、「干渉し過ぎだ」と思ったり、逆に「ほったらかしだ」と思ったりします。これも見立てです。それがあたっていたとしても、だからこうしていこう、という今後の方針がなければ、ただの愚痴で終わってしまいます。否定的に見るだけではなく、なぜそうせざるを得ないのか、もう一歩先を考えましょう。

### ◆適切な見立て

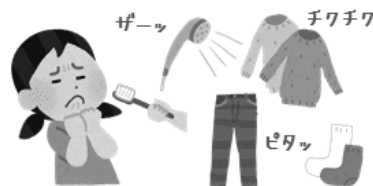
適切な見立ては、子どもや保護者を支援するために「役に立つ」ものです。また、子どもの状況の変化に合わせて、見立ても修正する必要があります。カウンセラーなど専門家の意見も聞ければ、見立てが一層深まるでしょう。

## 14

### 感覚過敏

光をやたらにまぶしがったり、音やにおいや過剰に反応したり、肌触りやタグが当たるのを嫌がり体操服を着ない、人に触られるのを嫌がる、のりや粘土にさわれない、などの感覚は生まれ持ったものです。我慢するのは苦痛で、それが不登校のきっかけになることもあります。

制服や体操服が着られない場合は別の服を検討するなど、学校でできる範囲の配慮を保護者・本人と相談してください。



## Ⅱ 初期対応

月に**3日以上**の欠席（年間30～100日）が目安。この時期、子どもの内面には大きな葛藤があり、親子の間もせめぎ合いの連続で、家庭内は緊張しています。本格的な不登校に移行しないための大事な時期です。



### 15 学校としてやること①～⑤

#### ①支援チームを発足

支援チームを編成し、生活、学習、進路などの面から必要な支援を検討し、教員の役割分担を明確化します。

※決して担任一人で抱え込まないように

#### ②校内の共通理解を得る

本人の状況を説明し、遅刻や早退、提出物への配慮など、学年の担当だけでなく、部活や委員会の担当教師にも安定するまで特別な配慮をすることを理解してもらいます。

#### ③スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーとの連携

専門家による見立て（発達障害や虐待の有無、情緒的混乱状況など）を行い、それに応じた対応をします。保護者や本人をカウンセリングにつなげないか考えます。現実に福祉的な支援が必要であれば、スクールソーシャルワーカーや外部の専門機関とも連携します。

#### ④保健室（別室）登校など校内体制の整備

見立てを元に必要なら保健室（別室）登校や放課後登校の体制を作ります。



#### ⑤個人記録票の作成

本人や保護者への対応やその反応等について記録しておきます。（家庭訪問の記録など）

16

#### この時期の典型的なパターン

「行ってきます」と言うけれど、玄関で固まって動けない。学校に行かなくてはと思えば思うほど体が動かなくなるのです。登校時間が過ぎてしばらくするとなんともなくなる。「2時間目から行こうか？」などと誘ってみると「行く」と言いますが、家を出る時間が近づくとまた、だんだんしんどくなってきます。葛藤の末、「今日は休んで明日行こうね」と親も本人も登校を諦めると、ほっとして症状が消えていき、テレビを見たりゲームができるようになります。夜になると「明日は行くよ」と言って準備をします。でも朝になると起きられない。無理して何とか行ける日もあれば、身体症状がひどくて行けない日もある。という繰り返しで、だんだん行けない日が増えていきます。 あんだんで「不登校でも子は育つ」より

17

#### 保健室登校

成績を付けない保健室の先生は、子どもにとってホッとできる存在であり、保健室は校内の駆け込み寺的な役目を果たします。しかし、養護教諭が一人で抱えることになったり、他の教員との板挟みになったりするケースもあります。「特別扱いではないか」「甘やかせずさだ」「他の子どもが真似するのでは」などの意見も当然あります。この子に保健室登校が本当に必要なのか、どんな形で言うのがよいのか、を事前に十分検討し、共通理解することが重要です。誰がどんな形でかかわるのかも大まかに決めておきます。教室復帰につなげることを念頭におき、特定の教科の授業を教室で受け保健室に戻るなど、保健室を基地として段階的に支援を進めます。

Column

埼玉県熊谷市の実践の中で、不登校支援に効果をあげた教師が不登校になりかかった子どもに「必ず行いたいこと」としてあげたものは次の4つでした。 「学校でしかできない不登校支援と未然防止（東洋館出版社）」

- ①その子の好きなもの、得意なものを探り、その面につき合う
- ②その子に活躍の場を与える
- ③その子が安心していられる場所を作る
- ④不安や緊張や怒りや嫌悪感など不快な感情を言葉で表現できるよう促す



年間の欠席日数が100日までの場合、100日以上は登校していることになります。登校したときに、学校や教室がその子にとってどれだけ安心できる場になっているかが大切です。教室以外に息抜きができるような場所を整えることも必要かもしれませんが、何より安心できるのは、担任の先生が自分の不安や苦しさをわかってくれていて、ネガティブな感情を語っても大丈夫だと思えることではないでしょうか。



不登校の初期の段階で、保護者と教師の感情が一時的にもつれることは珍しくありません。保護者の孤独で不安な気持ちをわかってほしいという思いを理解し、感情的に巻き込まれずに対応することが大切です。保護者が一番恐れているのは、「学校から見捨てられないか」ということです。「学校としてもできるだけのことをしますので、これからいろいろ相談しながらやっていきましょう」といった声掛けが安心を与えます。そして最後は「また連絡しますね（また来ますね）」の一言で終わるようにします。

Column

### この時期の保護者の気持ち

#### ①不安と焦り

これからいったいどうなるのだろう、このまま完全な不登校になるのではないかと不安になり、「誰か助けて」という気持ちでいっぱいです。宗教や占いに頼る人もいます。

#### ②犯人探し

学校に行けないのは学校に原因があるはずだと、猛然と学校に抗議することもあります。また、「祖父母が甘やかしたからだ」「父親が子育てに無関心だからだ」と家族への怒りも出てきます。逆に家族からあなたの子育てが間違っていたと責められ、傷ついている人もいます。

#### ③自分を責める（でも認めたくない）

自分の育て方が悪かったのだろうか、と自分自身を責め、親失格の烙印を押されたかのように感じている一方、少しでも自分が責められそうになると、厳しい態度で拒否する人もいます。そのくらい余裕がない状態であり、自分のこととして認められようになるには、保護者自身が受け入れてもらえる体験が必要です。

### ひどいお母さん？

玄関から子どもを放り出し中から鍵をかけた、校門で車からおろして帰った、電柱ごとに座り込む子どもを引きずって学校に連れて行った・・・全部実話です。そうやって親子で修羅場をくぐって理解し合っていけます。それは親にとっても必要なプロセスで、それ相応の時間をかけないと次のステップには進めなかったということです。いきなり物わりのいい親には誰もなれません。この時期は、保護者が泣く思いで子どもと向き合っていることを忘れず、保護者と話をしたいものだと思います。



30代後半、公立中学校の男子教諭です。やっかいな生徒にどう対応していいか、ほとんど困っています。それは授業を受けず、保健室のベッドに寝に来て自分勝手に時間を潰す生徒です。「疲れた」「体調が悪い」などと理由をつけて怠けています。「だったら早退して医者に診てもらえ」といっても聞きません。「少し経ったら治るかも知れない」などといって結局保健室に入り浸りです。養護の先生からは「文句を言ったり自分勝手な事をしたりして仕事ができない。担任の先生が何とかして」と半ば責められています。ですが、どうしたらいいのかわからず、そんな日が毎日続いています。「しょせん、よその子」と、自分には何ら関わりのない生徒のことで悩んでも仕方ない、と思うようにはしているのですが、それでもイライラはおさまりません。こういう生徒はごく少数で、ほとんどの生徒はいざとなったら話せばわかってくれます。ほとんどの生徒のために力を尽くすことだけ考えようと思うことが常にあります。考え方をどう切り替えたらいいのでしょうか。イライラして腹立たしい気持ちから解消されるのでしょうか。よろしくお願いします。

## A 上野千鶴子さん（社会学者）の回答

子どもは自分の問題を訴えるのに「ボキャ貧」ですから、カラダの不調で訴えます。この生徒さんは、学校へ来るのだってつらいでしょうに、保健室へ行けばますます教室へ足が遠のくでしょうに、それでも学校へ来て、それでも教室へ入らず、それでも保健室でようよう過ごし、「頭が痛い、体の具合が悪い」って、何かを必死になって、訴えてるんでしょうね。「体の不調」を文字どおり取るなんて、人間理解の初歩にも至りません。その背後に、何かいりくんだ隠された事情があることぐらい、カウンセリングの世界では常識。それを真に受けて「医者に行け」だの「休んだら」は見当違い。ましてや「怠けてる」なんて誤解もはなはだしい。ほんとに怠けてるなら、わざわざ学校へ来ないでしょう。

ほんとにこういう機微に立ち入るのが担任にはできない、養護の先生のお役目。「仕事ができない」どころか、何かを訴えて保健室に来る子の相手をするのが「仕事」でしょ。こうやってお互いに責任をなすりつけあうのが今の学校なのかと暗澹（あんたん）たる思いです。これじゃ、生徒にも親にも信頼されそうにありませんね。

大事なものは「話せばわかる」ことではなく、「聴いてあげる」こと。子どもはオトナに「聴かれて」いません。わたしも、よくおしゃべりしていると思っていた学生から、ある時「センセイ、ボクの言うこと、聴いてない」と言われて、ドキンとしたことがあります。強者の側から見た相互理解って、一方通行のことが多いものです。問題の生徒さんは学校へ出てきているのですから、引っ張り出すテーマが要りません。「どうしたの?」「どうしたいの?」とじっくり聴いてあげてください。ただし安全な環境で。頭ごなしに否定しないで。「通訳」が必要なら学校カウンセラーのような第三者に頼んでもいいでしょう。



※この生徒はあきらかに「HELP」のシグナルを出していますが、この男性の先生も「HELP」を出しています。

## 23 担任のしんどさ

自分のクラスの子どもが不登校傾向を示した場合、「自分に原因があるのだろうか」と自信をなくしたり、同僚や管理職の先生から自分の指導力を疑われるのではないかと不安にもなったりしますが、不登校の原因は、様々な要因が複雑に絡み合っているケースがほとんどです。ベテランの先生のクラスにも不登校は出現します。逆に、それまで不登校だった子どもが、自分が担任になり、登校するようになったからといって自分の力だと思ってしまうのも間違いです。担任が変わっても継続した支援ができるように、その子を支える柱を増やし、チーム支援をしてください。

## 24 欠席連絡

毎朝のことだけに、親にとっては大きな心の負担です。「朝は何時までに連絡すればいいのか」「遅刻して行くときは誰に連絡すればいいのか」「担任の先生と話したいときはいつの時間帯がいいのか」など、あらかじめ伝えておくと親の不安がかなり低くなります。また、欠席が増えている場合は、欠席連絡ではなく「今日行きます」という連絡をもらうようにするのも一つの方法です。

# Ⅲ 段階別支援

このステージは、学校には来ることができない状態を想定しています。不登校が長期化する場合、子どもの状況をしっかり見立てて、対応・支援に生かします。無理な登校刺激はよくないからといって、「待ちましょう」「見守りましょう」とただ待っているだけでは解決しません。適切な関わりをしながら待つことが大事です。



## 【不登校の段階チェック】

	自殺願望や自傷行為などがみられる
	※ <u>神経症的な症状</u> がみられる
	部屋に閉じこもり家族との会話がでない
	家族への暴言・暴力、幼児返りなどがある
	昼夜逆転等生活のリズムが乱れる
	家庭訪問しても本人に会えない

※神経症的症状（食欲不振、不眠、解離、手を洗い続けるなど）

**さなぎ  
前期  
12 ページ**

	家の中では落ち着いて過ごしている
	興味の範囲が広がってくる
	お手伝いや運動をするなど活動的になる
	家庭訪問で本人に会って話ができる
	家族と一緒に外へ出かけることができる
	生活リズムが整ってくる

**さなぎ  
後期  
14 ページ**

	「暇」「退屈」などと言う
	学校や友だちの話題を嫌がらず、プリントなどを読む
	友達と連絡をとって遊びに行く
	将来のこと（高校のこと）などを話す
	「学校へ行きたい」と言い、勉強を始める

**始動期  
16 ページ**

※チェックがまたがっている場合は、重い方に合わせます



## さなぎ前期

子どもは強い罪悪感や自己否定感、焦り、孤独感などに苦しんでいます。家庭訪問しても会えないことも多く、登校刺激は避け、保護者との信頼関係を作ることに努めます。



### 25

#### さなぎ前期にあらわれる特徴

- ①**生活の乱れ**（昼夜逆転、食事が不規則、部屋が汚くなる、お風呂に入らない、など）
- ②**ゲーム漬**（ゲームを続けている、のめり込む、周りの助言を聞き入れない、こだわり、など）
- ③**うつ状態**（自信や生きる希望を失う、死にたいと思う、リストカット、閉じこもり、など）

「早く寝ないから朝起きられないんだ」と思う親や教師は多いのですが、なぜ早く寝ないのか・・・目に見えている行動の裏に隠れている子どもの心の中を考えることが、子ども理解の一步です。

### 26

#### 生活が乱れる理由

生活の乱れは、新しい自分作りのための基礎作り。古いビルを壊し、更地を造成し、新ビルを建築するように、今までの自分をいったん壊さなければ次に進めません。昼夜逆転が起こるのは、①深夜は自分だけの落ち着く時間であり、②日本中が動き出す一番つらい朝の時間を寝ていることで自分の心を守っているのです。ゲームにのめり込むのは、現実逃避。それをしている間だけは、苦しみから解放されます。そのおかげで子どもはつらさに耐え、日々をなんとかやり過ごせるのです。ゲームは「命綱」ともいえます。



### 27

#### さなぎ前期の保護者の気持ち

無理やり学校に行かせることはできないけれど、どうすればいいのかはわからず、本を読んだり講演会に行ったりして知識を仕入れても、目標は学校に行ってくれることであり、まだまだ目の前の子どもの気持ちに向き合うのは難しい段階です。毎日ゲームばかりしている子どもを見て、「全く悪いと思っていない」「こんなことをしていて将来どうするつもりだろう」という怒りや焦りがあります。ご近所や親戚に知られたくないと思い、親も家にこもりがちになることがあります。その一方で、何かきっかけさえあれば登校できるのではないか、という根拠のない期待を抱き続けます。また、「どうしたらいいですか？」「～してもらえませんか？」といった依存的な気持ちが強くなります。

### 28

#### Q 毎朝起こすべきでしょうか？（親の会でよく質問されること）

A お母さんは目覚まし時計になってください、とお願いしています。朝、学校に行くのに間に合うギリギリの時間に、たとえば「7時半だよ」と声をかけます。目覚まし時計ですから時刻を知らせるだけで、「起きなさい」とか「今日はどうするの？」などは言いません。起きるかどうかは子どもが決めます。でも親としての責任はきちんと果たしていることになります。親が起こすことにこだわっていて、子どもに負担を与えていることもあります。親子の関係性の質を見極めながら保護者とともに悩み考えましょう。教師も保護者も手探りですが、本当に子どもに寄り添えると保護者自身が答えを見つけていけることしばしばです。





① 訪問時間を連絡してから行く 毎週決まった時間がベスト。

② 訪問時間は短く 30分程度。長くても1時間。無理なく継続できるように。

③ 保護者と話すことを目的に

子どもと会えないときは、保護者との関係づくりに重点を置き、保護者の話から子どもの状況や変化を把握します。励ましや説教は信頼を損ねることもあるので慎重に。自傷行為や摂食障害などが著しい場合は、保護者と連携の上、専門機関につながります。

④ プリントは聞いてから

学習プリントや連絡のお手紙などが大量に届けられると、それを見ただけで落ち込むこともありますので、子どもに聞けない場合は保護者の意向に沿います。

手紙を届ける場合は、返事はいらないと伝えておくともどもはホッとします。

※手紙は残るものであり、本人以外の目にもふれることも頭に入れて書きます。

この時期、クラスの友だちからの手紙や色紙のメッセージを脅威に感じる子どももいます。また、近所の子どもに配布物を届けさせるのも双方に気持ちを聞く配慮が必要でしょう。

⑤ 行事連絡・進路情報は漏らさず伝える

行事は普通の授業よりハードルが下がります。見学だけの参加や保護者と一緒にの参加、家でもできること（作品を作る、イラストを描くなど）を提案してみます。また、中学生の場合、進路を意識して動き始めるケースも多いですので、進路情報は必ず伝えます。

30

保護者のアンケートより（あんだんて「プロン・トン・トン」より）

◇うれしかったこと

- ・親も学校へ行くのはつらい時期だったので、定期的に先生と話せたのはありがたかった
- ・子どもは先生に会わなかったけれど、先生からの手紙だけは必ず読んでいた
- ・子どもも親も絶対責められなかった
- ・家でゆっくりして少しずつ元気になっていくのを見守ってくださった
- ・「悪いことをしているわけではない」「子どもはちゃんと考えている」と言ってくれた
- ・担任の先生が来られないとき、学年の先生が来てくださった

◆いやだったこと

- ・洗濯物を干してある部屋に上がった
- ・「家でも運動させてください」と言われた
- ・チャイムを何回も押されたことや玄関先で大きな声で話されたこと
- ・母親としての育て方を否定された
- ・我が子の写っていない学級写真の年賀状
- ・遠足が終わってからしおりが届けられた

Colum

31

教材費・給食費

子どもが不登校でも役員を受けるかどうかは保護者次第です。とてもやれないという人と、やることで学校とつながっていたいと考える人がいて、直接確認してもらおうのがよいと思います。また、教材費や給食費の引き落としなども相談して決めてください。

32

関係性を切らないということ（伊藤美奈子著「不登校その心もようと支援の実際」より）

私は、学校という長いロープの先を握っている。もう一方の先を握っているのは、（顔は見えないけど）私の先生。もし先生が「あなたに会いたい」と言って、ロープをぐいぐいと引っ張ったら、私は怖くなってロープを放してしまうと思う。だからそれはやめてほしい。でも、私の「会いたくない」という言葉を鵜呑みにして、先生の方からロープを手放してしまったら、私の手にはロープの先しか残らない・・・

クラス担任にとってはクラスの子どもたち一人ひとりと（不登校であるなしにかかわらず）一本ずつのロープが握られているはずである。30人いたら30本のロープを、それぞれの子どもたちを思いながら持ち続けるのは、非常に大きなエネルギーのいる作業であろう。しかし、この対応が今、ますます学校現場で必要となっている。

## さなぎ後期

親からの圧力が減り、やっとホッとして休んでいる状態。腹痛などの身体症状は消え、心のエネルギーが少しずつ蓄積されていきます。傷はまだ薄皮を被っている状態。家庭訪問で本人に会えるなら、一緒に遊ぶなど子どもとの信頼関係を築きます。登校刺激はまだ早いです。

### 33 さなぎ後期の子どもと接するときのポイント①～③

#### ①教えたがりの教師の心を捨てる

アドバイスや説教より同じ時間を楽しく共有する方がずっと意味があります。遊びも話も子どもがリードし、教師はそれについていきます。心の交流が進んでいくと、子どもがポツポツと話し始めます。



#### ②結果を急がない

学校復帰や勉強の話が一切出てこず、子どもの状態が変化していないと感じると、自分がやっていることに自信がなくなり、やり方を変えなくなります。すると、「こうしたらどうですか?」「やってみない?」と、子どもや保護者にいろいろ注文したくなります。結果として子どもは教師の訪問を嫌い始めます。自分が担任している間になんとか・・・と焦ったり、恐る恐る子どもに接したりすると緊張感がすぐ伝わります。明日に続く家庭訪問を心がけます。

#### ③担任一人で抱えない

親や子どもに直接会うのは、この時期は担任の先生だけになりがちですが、家庭訪問で得た情報や子どもの様子を支援チームやスクールカウンセラーに伝え、見立ての修正と今後の方針を共有するようにします。いつも一人で家庭訪問せず、副担任や学年主任などにも協力をお願いすることで、保護者にも学校として、あるいは学年として見守っていることが伝わります。

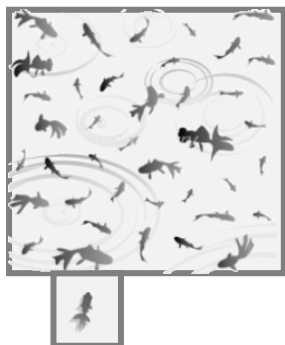
家庭訪問が、子どもにとって支援になっているかどうかは、子どもや保護者の表情や様子で判断します。教師が帰った後の様子を保護者に聞いてみることも有効です。支援になっていないと思った時は、別の方法を考え、全く連絡しない期間をつくらないようにします。



この時期の家庭訪問は、一度交際を断られた相手を訪ねていくのと似ていると言われます。あくまでも相手の気持ちに沿った対応が必要だということです。

34

## 心のまど



小さな水槽に一匹だけいる金魚を、上の大きな水槽にいきなり放り込むと、きっと不応を起こしてしまいます。無理なく移すには、どうしたらよいでしょう?

こっちに來ればこんな楽しいこと(文化祭、修学旅行、体育大会など)があるよと誘う、など、教師は自分のいる世界に子どもを引き込もうとしがちです。興味を持って「行ってみようかな。」と思う子もいるでしょうが、たいがい失敗に終わります。

まずは、教師自身が下の水槽の中にそっと入ってみます。そして、金魚の泳ぐスピードや方向に合わせて一緒に泳ぎながら、少しずつ仲良しになっていきます。焦って上の水槽の話をする必要はありません。そんな話をしなくても、そこから来た金魚であること、そこに連れて行きたいと思っていることは、十分伝わっているからです。

「心のまど」とは、子どもにとって大事なゲームやアニメなど、子どもが生きている世界を尊重し共有し、子どもと出会う場です。子どもの話にひたすら耳を傾け、子どもの成熟を待ちます。関係性が深まってくると、窓はだんだんと大きく開かれていくでしょう。

Column



## 35 登校刺激の与え方について



「ゆっくり待つのが大事だ」という意見も、「ただ待っているだけはいけない」という意見も、どちらかが正解だということではなく、子どもの状態も性格も違うので、同じ対応をしてもうまくいく場合もいかない場合もあります。心身ともに疲れて動けない子どもと、だんだんエネルギーをためてきた子どもとでは、かける言葉は違います。今はまだ学校の話はやめよう、と思うのか、そろそろ学校の話を出しても大丈夫、と思うのか、子どもの心の状態をしっかりと見極めることが必要です。そのためにも担任一人ではなく、他の教員やカウンセラーなど複数の目で子どもの状態を見立てることが大切です。

## 36 登校以外の目標の設定



保護者が子どもへの理解を深め、登校はさておき、この子と徹底して付き合おうと腹をくくられると、子どもも「自分は本当に受け入れられている」と安心できるようです。保護者が登校にこだわるようなケースは、「登校すること」以外の目標を一緒に考えます。

例えば、「一緒に食事をする」「リビングで過ごせるようになる」など、小さな目標を決め、それをクリアすることで、保護者が「ずいぶん元気になってきた」「笑顔が増えた」と感じられると、保護者も見通しを持った余裕のある関わり方をされるようになります。

- ・今の状態が 30 点だとしたら、どうなれば 40 点だと思いますか？
- ・今、保護者が困っていることはありますか？ などの質問で目標を探します。

## 37 他の子どもたちへの説明

クラスの子どもたちに、休んでいる子のことをどのように説明するかは、学年やクラスの実態によってずいぶん違ってきます。子どもたちには、噂話や習い事のつながりなどから情報が入りますが、それが正しいとは限りません。一度は担任の先生の口からきちんと話すことも大切です。

- ① **本人と保護者の了解を取り、どのように話すかもきちんと確認しておきます。**
- ② **基本的には、事実だけを伝え、解釈は避けます。**
- ③ **他の子どもたちが、心配してくれたり、当番活動などで配慮してくれたりしていることに對して、担任として感謝していることを伝えます。**



その子のプリントを入れる袋があったり、係や日直の札も入れ替えたりと、担任の先生が欠席している子のことを忘れずにいる様子を見ていれば、子どもたちも忘れることはないでしょう。その子の机の上が物置になっているような状態はよくありません。「〇〇さんをスーパーで見かけたよ」と言われたら（例）「そう、そんなに元気になってきたのですね。もう少しで学校へ来られるかもしれませんね。楽しみに待っていきましょう。」と肯定的に答えます。学校をさぼってスーパーには行っているんだ、という雰囲気にならないように気を付けます。

38

## テスト・評価について

テストが受けられるか、どのような受け方ができるか（場所・時間・限られた教科）について本人、保護者と相談します。テストだけではなく出席や作品、提出物なども評価に入ることなどもきちんと説明します。通知表も、渡すことが本人にとって意味があるかどうかを考え、記載の仕方や渡し方を工夫します。

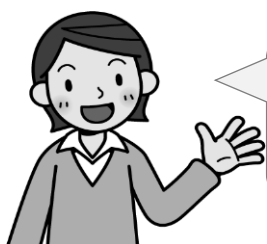
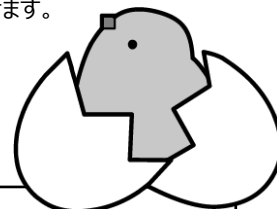


# 始動期

身だしなみを気にし始める、散髪をする、新しい服を買う、部屋の掃除や机の整理をする、学校からのプリントに目を通す、友だちと連絡をとる、外出が増える、表情が明るくなる…など、子どもの様子に回復の兆しが見え始めます。始動期はリハビリ期間。子どもが安心できる人間関係と居場所が必要です。いきなり学校ではなくても、家庭教師や塾、習い事、「ASU」への通室など、子どもの気持ちを聴きながら働きかけます。

39

## 学校への誘い方の一例



ずいぶん元気になってきたように思うんだけど。  
もし、今の状態から少し変えるとしたら、この中  
でどれならできそう？

①  
学校へ  
行く

②  
「ASU」  
へ行く

③  
もう少し  
家にいる

④  
その他

### ①学校へ行く、を選んだ場合

じゃあ、一緒に作戦を考えよう。先生がついているから大丈夫。

（無理をしているなと感じたら）

そうか、でも無理はよくないから、ゆっくり考えよう。

1週間後にもう一回聞くから、一人でゆっくり考えておいてね。

### ②「ASU」へ行く、を選んだ場合

では、どんなところか一緒に見学に行ってみようか。ブログもあるらしいから見てみようか。

無理やり引っ張ってなんていかないから安心してね。

### ③もう少し家にいる、を選んだ場合

わかった。ちゃんと自分の気持ちを言ってくれたことがとても大事だと思うよ。

家で何かに挑戦することもできるね。先生に何かできることはないかな？

※次は行事登校（18ページ）をタイミングよくすすめます

### ④その他、を選んだ場合

何か考えていることがあるんだね？聞かせてもらえるかな？



※これはあくまでも一例です。先生方それぞれの個性と感性で誘ってください。

子どもがようやく動き始めたとき、親や教師はうれしくて、ついつい先走りし、今がチャンスとばかりに、子どもを誘導しようとしがちです。子どもは「ほら始まった、結局そうやって自分の思い通りにしようとするんだ」となってしまいます。むしろ「無理しない方がいいよ」「焦らなくていいんだよ」と一度引き止めてみます。子どもが本気ならそれでも前に進もうとします。それでやめるのなら、時期尚早だったということです。





## ①本人と

クラスの様子、授業の準備物、座席や班などの情報を伝えることで不安を和らげます。

どういったステップで学校復帰をするかじっくり話し合います。

## ②保護者と

学校の支援方針を丁寧に説明し、学校と家庭でずれないようにします

## ③クラスで

再登校することを学級で伝え、受け入れ態勢を作ります。休んでいた理由を聞かれるのを嫌がる子どもが多いことを伝えておきます。仲の良い子と事前に会わせておくのもよい方法です。

## ④教職員で

支援体制（出迎える、教室以外での対応、保護者への連絡など）を話し合っておきます。

※3か月で教室に戻れるのを目標に子どもと相談しながら作ってください。

1 朝、起きてみる（徹夜でもよいしその後眠ってもよい）

2 朝起きて、朝食を食べる

3 制服に着替えてみる

4 カバンを持って玄関で靴を履く

5 放課後、校門まで行ってみる（私服でもよい）

6 誰もいない教室の自分の席に座ってみる

7 朝、校門まで行ってみる（登校する時間は自由）

8 時間を決めて保健室など行きやすい部屋に行ってみる

9 朝の会だけ、終わりの会だけ教室で過ごす

10 授業を1時間だけ受けてみる（午後でもよい）

11 午前中、または午後、半日教室で過ごす

12 1日、教室で過ごす（休み時間は保健室でもよい）

ひとつのステップを1週間続けたら次に進むくらいのペースで始めます。もちろん1日で次に進んでもかまいませんし、いくつかのステップを飛ばして先に進んでもかまいませんが、子どもが走りたいのをブレーキをかけるくらいがちょうどいいです。「急がなくていい」「無理はしないでゆっくりいこう」

次の段階に進むとき、不安に感じることがあれば、その場面を教師と予行演習（ロールプレイ）するのも有効です。



Colum

順調に学校復帰が進むケースはまれです。クラスのメンバーが、再登校した子どもをすんなり受け入れられるか？しばらく家にいた子どもが教室での人間関係の中にすっと入れるか？それを想定して、子どもには「実験」と言っておく方法があります。午前中だけ行くという実験。放課後に行ってみるという実験。保健室に行ってみるという実験。その結果からいろいろなデータがもたらされ、次の実験に生かすことができます。

順調に進まないのは先生の責任だとして、「しんどい思いをさせて悪かったね」「もっとゆっくり進めたらよかったね」「ちょっと準備不足だったかなあ」と子どもに謝るという手もあります。ただしあまり深刻に謝る必要はありません。大きな挫折をしてしまったという雰囲気は避け、教師も一喜一憂せず、どんと構えている方が、子どもも気楽なのではないでしょうか。学校に来なくとも、子どもが社会的に自立すればそれでよいという教師のゆとりが子どもに安心感を与えます。

普段の教室場面には入りにくい子ども、非日常の行事場面は少しハードルが下がります。ただ、保護者だけが参加させたいと思っている場合もありますので、必ず本人の意思を確認してから話を進めます。直前ではなくできるだけ早い段階で連絡します。

#### ◆遠足や社会見学、泊を伴う行事（野外活動や修学旅行）

- ☐ 班分け、バスの座席などへの配慮      ☐ 事前の話し合いや調べ学習に参加できるか
  - ☐ 保護者同伴での参加や部分的な参加      など
- ※キャンセル料が発生する場合は、期限を保護者に伝えます。

（お金は捨てるつもりでその日の朝まで待たれたケースもありました）



#### ◆文化祭や運動会（体育大会）、球技大会などの行事

- ☐ 当日の部分的な参加（綱引きだけ参加など）      ☐ 保護者同伴での見学
- ☐ 家でできる事前準備の段階での参加（イラストを描く、はちまきのアイロンをかけるなど）
- ☐ 放課後や前日など時間をずらして展示だけ見に来る
- ☐ 見学場所を配慮（教室から、2階から、保健室からなど）

#### ◆卒業アルバム・文集・寄せ書き

- ☐ 卒業アルバムを買うかどうか、写るかどうかから確認
- ☐ 写真撮影の日だけ来られないか      ☐ 写真屋さんに行って撮影できないか
- ☐ 先生や保護者が撮影する      ☐ 文章は書けなくてもイラストなどはどうか      など



#### ◆卒業式

- ☐ 事前練習に参加できるか      ☐ 前日会場準備ができた段階で登校して個別に練習
- ☐ 当日の朝から練習ができるか      ☐ 保護者席や職員席などで見るだけの参加
- ☐ 後日に校長室や職員室で証書を受け取る      ☐ 校長先生と家庭訪問して行う      など



## 45

### 子どもの不安を低くする方法

不登校になった子どもが再登校するのは、人生の一大事です。大人が思うよりその敷居を高く感じています。たとえば、水泳で高飛び込みをしようとするとき、いきなり数メートルの高さから飛び込める人はいません。最初は水面ギリギリから始めて徐々に高さを上げていきます。不安や緊張を軽くするときは、「やってみたら意外と大丈夫だった」という感覚を味わわせることが大切です。そのとき、自分のそばに信頼できる人がいて、「できたね」と一緒になって喜んでくれることは大きな励みになります。「さなぎ期」に築いた子どもとの信頼関係が大きな力を発揮するときです。



## 46

### また休んだ子になんと声をかけますか

学校復帰が順調にいった子がまた休みました。担任としてなんと声をかけますか？できればほめてください。

**例** 休めてよかった。先生、ほっとしたよ。実は無理してるんちゃうかなと思ってた。自分でペース配分ができるようになるのはとても大事なことと思うよ。焦らずボチボチいいこうな。

## 編集後記

毎年、郡山城址の桜が満開になる頃、「ASU」の卒業生から、進学や就職のお知らせが届きます。そして、彼らの多くが「不登校の経験があったからこそ今の自分がある」と語るのを聞くと、感動します。

不登校は、否定的なイメージでとらえられることが多く、親も教師もできれば早く学校復帰させたいと思いがちです。しかし、彼らの語りから、不登校は、将来自立した人間として生きていくための成長の一過程であったと思わされるのです。共通しているのは、世間のものさしや親の価値観にも左右されず、自分の生きる物語を描き、自分のペースで歩み始めるという点です。

このように、不登校という経験を自分の中で意味づけ、自分の存在価値や生き方を獲得していった子どもたちがいる一方で、「ASU」にも通えなかった子、「ASU」卒業後の進路で再び挫折してしまった子もいます。まだまだ「ASU」も発展途上にあります。多様化する不登校への対応や、発達障害を抱える子どもの支援など、たくさんの課題があります。

現場の先生方と連携し、いろいろ相談しながら、視野を広げ、研鑽を積み重ねたいと思っています。このガイドブックへのご意見も頂戴し、修正・改訂をし、よりよいものにしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

初めて不登校の子どもを担当する

### 先生のための支援ガイドブック

発行：平成30年4月

発行者：大和郡山市教育委員会 学科指導教室「ASU」

〒639-1011 奈良県大和郡山市城内町 2-7

TEL 0743-85-7751(直通)

いろいろ一緒に考えさせていただきますので、どうぞお気軽にご連絡ください。